



ユニークなまちづくり公共公益複合多機能施設等を訪ねて⑦

〈事例7〉複合施設「ひと・まち交流館 京都」等 公有地有効活用と財政課題等(1)

——小学校跡地等有効活用例等と行財政運営課題等

出井信夫 前東北公益文科大学大学院教授

本稿は、当初の段階では、京都市におけるユニークな「ひと・まち交流館 京都」などに加えて、関連施設情報として、①小学校跡地活用における複合施設整備例、また筆者が数十年前に視察・調査した経験のある②京都市交通局の公有地の有効活用例、③民有地(大阪ガス京都工場跡地)の有効活用例である京都市リサーチパーク(KRP)における「地域産業支援」や「京都府と京都市の公的産業振興支援機関が集積し、層の厚い創業支援・育成支援」する活用例などについて、原稿資料の収集、情報整理等をしてきました。

その過程において、近年頻繁に報道されている④京都市特有のオーバーツーリズム問題と課題、また、⑤京都市行財政運営における財政危機問題と課題などについても、地方自治研究の一環として看過できない重要な問題・課題であると認識し、取り上げることとしました。

さらに、原稿整理の過程において、「京都—未完の産業都市のゆくえ—」(有賀健著、新潮社、2023年)と題する京都市経済論の大著が発刊されたことを知り、早速、購入して拝読しました。類書にない多種多彩な分析視点と、資料データの数量分析の視点などに感銘を受

けました。これら先達の京都市経済論の視点は貴重なものであり、極めて重要であるといえます。

その後、京都市内の路上観察の途中で、偶然、読売新聞大阪本社経済部編『解剖 京都力—5つの視点で探る強さの秘密』(淡交社、2023年)を書店で見つけ、購入して拝読しました。新聞連載記事を踏まえた実態調査や面談等による事例集で、力作です。

これらの著書における重要な視点等を取り上げることなくしては、画竜点睛を欠くと思ひ、追加紹介・論述しました。

京都市発展の一助として、広範にわたり多面的な観点より地方自治研究に関する諸問題について論述した次第です。収集した資料や先達の見解等については、浅学非才な筆者の一知半解等による理解不足などがあるかもしれませんが、ご寛容ください。

新市長のもとで、今後の京都のさらなる発展・展開が図られることを期待しています。

1 複合施設「ひと・まち交流館 京都」

(1) 立地位置と周辺地域環境

ア 施設の立地所在地

複合施設「ひと・まち交流館 京都」は、京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1(河原町五条下る東側)、JR京都駅からは市バス4、7、205号系統「河原町正面」バス停下車、菊浜小学校跡地にあります(図1)。

ひと・まち交流館 京都は、京都市が施設整備したものです。この施設は、「京都市景観・まちづくりセンター」、「京都市市民活動総合センター」、「京都市福祉ボランティアセンター」、「京都市長寿そこやかセンター」の四つの機能を併せ持つ複合多機能施設として整備されました。

図1 ひと・まち交流館 京都位置図



出典：ひと・まち交流館 京都ホームページ